



■活動日：2017年09月30日（土） 9：00～14：30

■参加者：チーム神於山 正会員 10名

■活動内容

- ・9月まではサマータイムで、基本は午前中で終了ですが、今回は、午前中は作業、午後は年度後半の活動について色々話し合いました。
- ・午前中の作業は、9月2日に刈り残した記念樹ゾーンと暗渠回りの草刈り 及び 架けたままになっているフクロウの巣箱降ろしで、共に予定通り終えることが出来ました。
- ・降ろした二つの巣箱は基地に運び、再利用する為、清掃して保存しました。
- ・午後は、新しく取り組む果樹園づくりと、後半のフクロウの棲む森づくりなどについて、いつも通りワイワイガヤガヤ話し合い、年度後半の取り組み方針を決めました。
- ・以下は、北浦さんが纏めてくれた結果です。忙しくなりますが、楽しむ心を忘れず頑張りましょう。

1. フクロウの棲む森づくりについて

1) 巣箱について

- ① 現行の側面開口タイプの2台については、雛を取り出しやすくする為に側面が開く様に改造し、再利用する。またもう一台、上部開口タイプを新造する。
- ② 設置場所は、現行の2台は昨年と同じ位置に。新造の一台は、現行の場所から離れた神於山シャープの森内に設置の方向。
- ③ 必要部材の購入は、金井さんと香遠さんをお願いします。

2) 巣内のカメラについて

- ① 現行のものはそろそろ寿命なので、新しい廉価タイプのサンプルを金井さんが持参。
- ② テストするも明るさが十分ではないことが判る。
- ③ 明るさF2クラスが欲しいが、金井さんの話では「5000円位する」とのことから、LED照明をつける方向で更に検討する。

3) トレイルカメラについて

- ① チーム神於山としては新たに購入せず、現有の1台（岡森さん預かり分）及び 個人所有の2台を活用。
- ② 今年の轍を踏まない様に、普段から生態観察に使用し、カメラの機能を十分習得しようという結論になった。

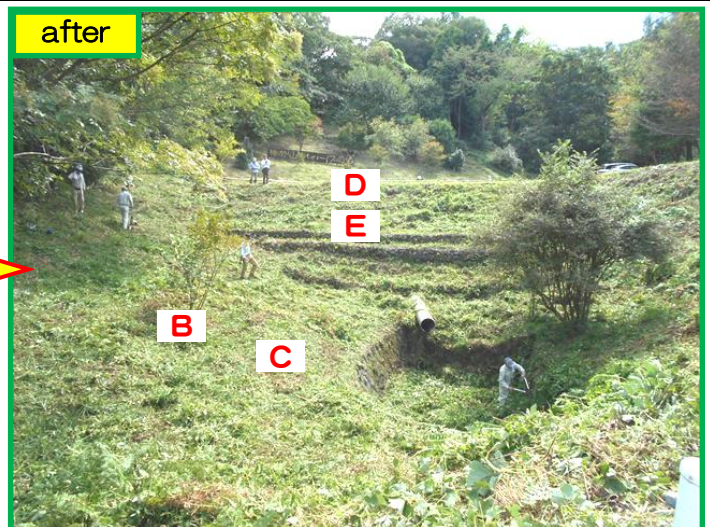
2. 果樹園構想について

- 1) 水遣りなどの新しい作業が増えることから、最初から欲張らず、苗12本程度から始める。（当初予定20本）
- 2) 果樹種類の選定は、原さんと岡森さんをお願いします。
- 3) 関連して「神於山シャープの森」看板のリニューアルと移設、貯水タンクの移設、雨水利用の設備設置、イノシシ対策等の具体化など新しい作業が増えることから、全体を見通したスケジュール作りが必要。

3. その他

- 1) 今後も竹材の利用が必要になるが、竹林から多目的広場までの運搬がだんだんしんどくなっていることから人力に頼らない方法を考える必要があり、各自色々アイデアを出し合うこととした。

■暗渠回りの草刈り完了



- ・今回、ミカンなどの柑橘系の木を植えようと考えている場所は、記念樹ゾーンの、現在「神於山シャープの森」の看板を架けている場所から下の植栽地（写真A）と、暗渠回りの、現在サクランボの木（写真B）を植えている場所から暗渠までのスペース（写真C）です。
- ・これにより「神於山シャープの森」の看板は、今の位置から、多目的広場と暗渠の境界線分部分（写真D）に移設しますが、林道（カメラ位置）から見た場合真正面になりますから、露出効果は今よりぐっと良くなります。
- ・また多目的広場から暗渠までの斜面（写真E）には、防水シートと竹を利用して、神於山で実際に行われていた雨水収集装置と雨水溜まりを作る予定です。
- ・この雨水収集装置と雨水溜まりは、防草効果も期待できますから、うまく行けば一石二鳥になります。

■作業風景

刈払機と刈り込み鋏と長柄の草刈り鎌のコラボです。



刈り残した記念樹ゾーンの基地傍の斜面は刈払機で。

原さん・土居さん・小林さん大活躍。



暗渠のフトン篋の回りと暗渠の中は、刈り込み鋏と長柄の草刈り鎌の出番。 金井さんと現役の大石さん大奮戦。



暗渠の斜面は刈り払い機で。北浦さんの独壇場。

岸和田市から要請があった桐の除伐は吉田・岡森ペアがハッサリ。

■刈り込みで姿を現した土止めの「フトン箆」に座って一枚。 お疲れ様でした。



- 久しぶりに姿を現したフトン箆(鉄線で編んだ長い籠に碎石を詰め込んだもの。河川の護岸や斜面の補強などに使用される)に座って一枚。
- 前列の3人が腰をかけているフトン箆に、竹と農業用防水シートで作る予定の「雨水溜まり」を置き、中・後列の7人が居るあたりに、倉庫で眠っている厚手のシルバーシートを利用して雨水収集装置を作る計画です。
- さて絵に描いたように上手く行きますかどうか・・・？



閑話休題

巣箱の中にあった卵の殻+α と ヤマモモ酒の瓶に貼るオリジナルシール。



ベースの実線一柙は1cmです。

- 左の写真は、従来から栄養実績のある木に架けた巣箱から、金井さんが見つけたもので、今年はその巣箱から一羽の雛が巣立っています。
- 上段の左右二つは、卵の殻です。
- 巣箱からこれほどはっきりした卵の殻が見つかったのは初めてです。
- 下段の三つの内、真中と右は、白い石灰のような塊です。
- 左端のものは、組成はその右の二つと同じ様に見えますが、色がベージュっぽいのと小さな藁くずや、羽毛のようなものが混ざっています。
- 色々考えられますが、憶測は止め、きしわだ自然資料館の風間学芸員に送り、どういうもので、どんなことが考えられるか科学的に分析いただこうと思っています。



- 右の写真は、ヤマモモ酒を詰めた瓶に貼る予定のオリジナルシールです。金井さんがデザインしてくれました。

- 7月に収穫したヤマモモは、ヤマモモ酒として瓶に詰めて会員の皆さんにお届けする予定で、現在焼酎に漬け、収穫した会員の自宅で熟成中ですが、お届けする際は、このシールを張ってお届けしますのでお楽しみに！

